

スズキ、ミラノショーで海外向け二輪車の新モデルを発表

スズキ株式会社は、11月17日から22日*までイタリア・ミラノで開催されている二輪車ショー「EICMA 2015(ミラノショー)」で、海外向け新モデル「**SV650**」を発表した。さらに**コンセプトモデル「GSX-R1000**」を出品した。

※プレスデー:11月17~18日、一般公開日:11月19~22日

【新モデル】

●650cc Vツインエンジンのロードスポーツバイク新型「**SV650**」



新型「SV650」は、既存の645cm³ V型2気筒(Vツイン)エンジンをベースに、新排出ガス規制「ユーロ4」(欧州仕様車)を満たしながら出力と燃費性能を高め、軽量でコンパクトな車体に搭載したロードスポーツバイクである。車両の細部にわたる見直しを行い、既存エンジン搭載の「グラディウス」と比較して8kg(ABS仕様車)の軽量化を実現したスリムで軽量な車体は、Vツインエンジンの力強さを引き立てるとともに、高い操縦性に貢献する。エンジン内にはピストンのスカート部にスズめっきと樹脂コートを施すことで、メカニカルロスを低減し燃焼効率を高めた。

また、発進時や低回転域においてエンジン回転数を僅かに上げることで発進・停車を繰り返す市街地走行などでの操作性を向上する「ローRPMアシスト」を採用した。さらに、スタータースイッチを押し続けずにワンプッシュするだけでエンジンが始動する「スズキイージースタートシステム」を採用し、日常用途での利便性を高めた。

2016年1月よりスズキの豊川工場生産を開始し、欧州、北米などで販売を開始する計画である。

【コンセプトモデル(参考出品車)】

●スズキを代表するスーパースポーツバイクのコンセプトモデル「GSX-R1000」



コンセプトモデル「GSX-R1000」は、MotoGPで培われた技術を採用することで「GSX-R1000」をさらに進化させたコンセプトモデルである。「GSX-R」シリーズの特長である、エンジンと車体が調和した「走る・曲がる・止まる」の基本設計を徹底的に見直し、高次元でバランスさせるべく開発を進めている。

新開発1000cc直列4気筒エンジンは、低中速域での出力を犠牲にすることなく高回転域での出力を高める為に、吸気VVTやスズキ二輪車初の電子スロットルなど、MotoGPレースで開発された技術を取り込んだ新機構「ブロードパワーシステム」を搭載している。また車体は、新開発のフレームとスイングアームにより、強度の最適化と軽量化を図り、空気抵抗を大幅に低減する為にカウリングも新しくした。

さらに、走行条件に応じてモードを選択可能なトラクションコントロールを搭載し、サーキットでの走行において有効な電子制御としてクイックシフトシステムとローンチコントロールを装備している。